

全員協議会資料

内丸地区将来ビジョンの策定について

令和3年6月25日
市長公室

1 趣旨

市や県の行政・経済活動の中心である内丸地区において、建物群の老朽化や官公庁の一部移転による空き地の点在等が課題となっている。少子高齢化や人口減少が進行する中、市が将来にわたって都市の活力を維持し、持続可能なまちとなるためには、将来的なまちづくりを見据え、その中心である内丸地区のあり方を検討する必要が生じている。

このことから、内丸地区の将来像と、その実現に向けた取組の方向性を取りまとめるため、内丸地区将来ビジョン（以下「ビジョン」という。）を策定しようとするものである。

2 ビジョンの骨子案

別紙のとおり

3 ビジョン策定の進め方

(1) (仮称) 内丸地区将来ビジョン懇話会の設置

ビジョンの策定に向け、内丸地区の将来像を描き、その実現に向けた取組の方向性について意見を交換するため、地区に立地する官公庁や企業、商工団体等から成る「(仮称) 内丸地区将来ビジョン懇話会」を設置する。

懇話会の構成（予定） 国、岩手県、盛岡市、企業、岩手医科大学、盛岡商工会議所等

(2) これまでの経過

令和2年3月 内丸地区の将来を考える官公庁連絡会議（第1回）

（盛岡財務事務所・盛岡広域振興局・市）

4月 建物所有者への意向調査

7月 内丸地区の将来を考える官公庁連絡会議（第2回）

11月 内丸地区の将来を考える官公庁連絡会議（第3回）

(3) 今後のスケジュール（予定）

令和3年6月 市議会全員協議会（骨子案）

7月 (仮称) 内丸地区将来ビジョン懇話会（第1回）

8月 (仮称) 内丸地区将来ビジョン懇話会（第2回）

市議会全員協議会（案）

9月 パブリックコメント等

10月 (仮称) 内丸地区将来ビジョン懇話会（第3回）

11月 市議会全員協議会（最終案）

ビジョン策定

別紙 内丸地区将来ビジョンの骨子案

全員協議会資料
令和3年6月25日室
市長

1はじめに

(1) 策定の目的

盛岡市や岩手県の行政・経済活動の中心である内丸地区において、建物群の老朽化や官公庁の一部移転による空き地の点在、医大跡地の利活用等が課題となっている。少子高齢化や人口減少が進行する中、市が将来にわたって都市の活力を維持し、持続可能なまちとなるためには、将来的なまちづくりを見据え、その中心である内丸地区のあり方を検討する必要が生じている。

このことから、内丸地区のあるべき将来像と、その実現に向けた取組の方向性を取りまとめる目的で本ビジョンを策定するものである。

(2) 対象区域

内丸行政区域と、内丸の官公庁エリアから連携する中央通沿いのオフィスビルが立地する業務エリア及びその周辺の区域を、概ねの対象とする。



2 盛岡市の将来見通し

(1) 市の人口

市の人口は今後も減少の見込み
(2040年人口 247,898人、2015年比指標83.3)



(2) 市の就業・従業人口
市人口減少により市の就業・従業人口は減少の見込み
(2040年生産年齢人口 2015年比指標 73.2)

(3) 市の土地利用（人口密度）
人口減少により市の人口密度は低下する見込み
(一人当たりの行政コストが増加する懸念)

(4) 市の交通
人口減少や高齢化により自動車免許保有者数は減少の見込み
高齢者の移動手段として公共交通機関の重要性が高まる想定

別紙 内丸地区将来ビジョンの骨子案

3 内丸地区の現状

(1) 中心市街地等の現状

① 内丸地区

- 国・県・市の行政機関が集積
- 医療・金融・報道機関、文化施設が多く立地
- 隣接する中央通りに多くのオフィスビルが立地
- 周辺も含め消費や交通利用など副次的な経済効果
- 盛岡城跡公園周辺に歴史・観光散策エリア

行政・経済
中心エリア

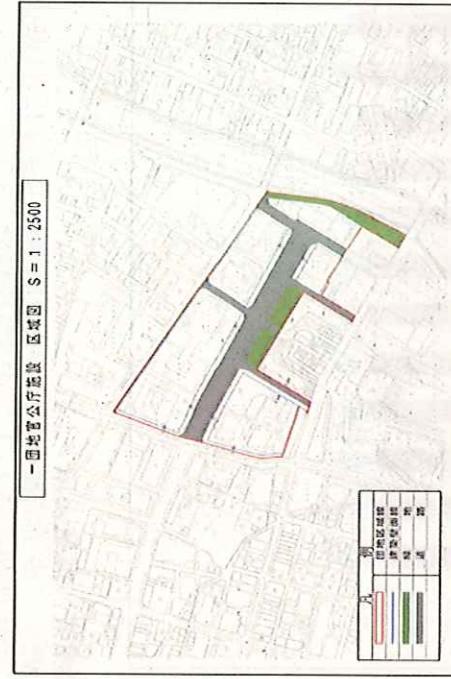
② 大通・菜園、河南、駅東口（駅周辺）、駅西口、盛南新都市地区

- 大通・菜園 メインストリート・飲食・サービス・エンタメエリア
- 河南 古き良き／再開発が同居する賑わいエリア
- 駅東口 近郊交通・観光拠点サービスエリア
- 駅西口 高速広域交通拠点・対外的ビジネスエリア
- 盛南新都市 自動車アクセス優位の生活・ビジネスエリア

(2) 内丸地区の特徴・位置づけ

□ 昭和32年に「一団地の官公庁施設」として都市計画決定

官公庁の集約による利便性向上、建物の不燃化、
土地建物の高度利用、都心のイメージ構築などの時代背景



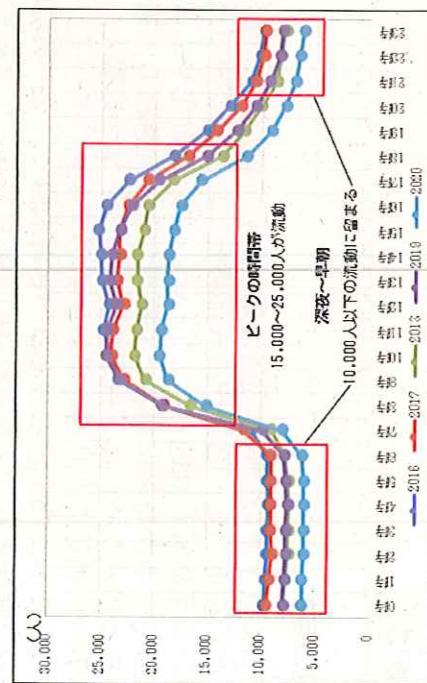
| 用途地域 | 指定建ぺい率 | 指定容積率 |
|-----------|--------|--------|
| 商業地域 | 80% | 600% |
| 一団地の官公庁施設 | 40%以下 | 100%以上 |

□ 都市計画道路5路線を配置 都市機能集積地区であり、交通量が多く朝夕には渋滞

□ 路線バスの利便性が高い、 1日1,500本の路線バスが地区内を運行

□ 観光バスの駐車スペースは限定的

□ 平日昼間に人口流動が集中 1日15,000人～25,000人が内丸地区で流動



※ 携帯電話アプリ利用者の位置情報（各年6月 岩手県庁付近）

別紙 内丸地区将来ビジョンの骨子案

4 内丸地区の課題

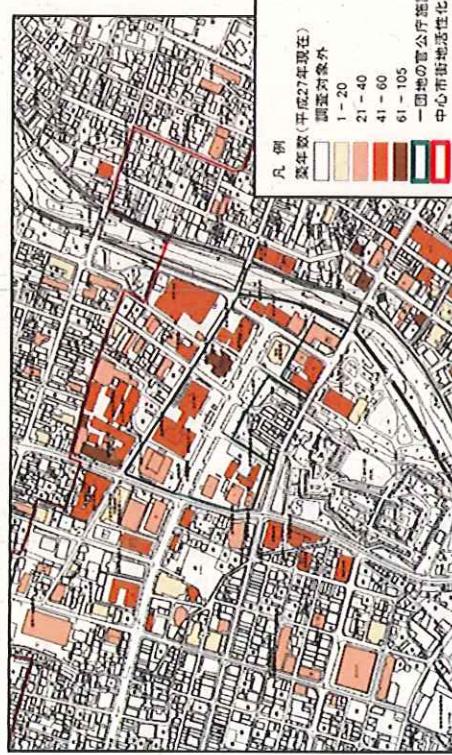
(1) 築50年を超える建物群

□多くの建物が老朽化

市庁舎本館、県庁舎、県盛岡地区合同庁舎、県議員会館、

国盛岡合同庁舎、民間建物の一部

□敷地が狭隘で現在地への建替えが困難
建替え時に一時移転を要するため時間・費用面で不利



建築物の状況（築年数）

(2) 空地の発生と土地の高度利用

□官公庁の一部移転により空き地が点在

平成23年 盛岡合同庁舎1号館]ともに駅西口地区へ
平成28年 盛岡中央消防署

□「一団地の官公庁施設」の土地利用制限

内丸地区に今後求められる機能や社会情勢の変化等を踏まえながら、制度の見直しについて検討が必要

(3) 市庁舎の老朽化、建替元

□老朽化と建替え用地の確保

本館：昭和37年竣工（築59年）

別館：昭和59年竣工（築37年）

□将来建替えが必要であり建替え用地について要検討

□市庁舎の機能分散等

人口増加、合併、権限移譲等により分庁舎に機能が分散

敷地が狭隘な本庁舎は駐車場が不足

□洪水災害の危険性

浸水想定区域に位置しており防災対策が必要

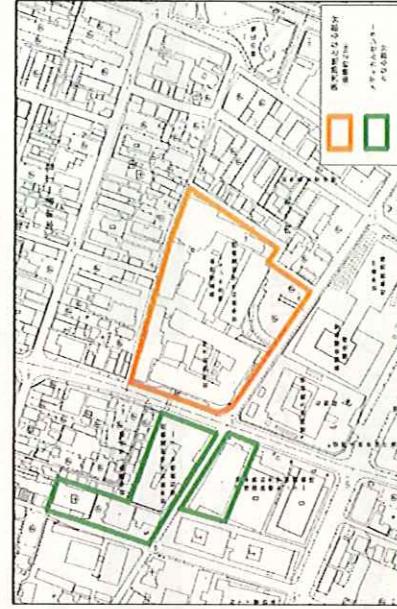
(4) 岩手医大跡地の利活用

□中心部に大規模な跡地

内丸地区に生じる約2haもの跡地の利活用が課題

□移転による人流減

病院利用者や関係者による消費や交通利用等の減
(経済活動を中心として大きな変化が生じる可能性)



岩手医大跡地概略図

別紙 内丸地区将来ビジョンの骨子案

全員協議会資料
令和3年6月25日 室長
市公

5 内丸地区の将来像

※想定される論点

- (1) 重視すべき視点
 - 社会経済活動の中心的役割
 - 発生する自然災害
 - 交流人口の維持・拡大 など

- (2) 内丸地区のあるべき姿
 - 様々な都市機能が集積した活気のあるまち
 - 強靭なインフラを備えた災害に強いまち
 - 観光資源を活かした魅力あふれるまち など

7 ビジョンの具現化に向けて

ビジョンの具現化に向けた進行イメージ



6 今後の取組の方向性

※想定される論点

- 移転・建替えの総合調整
- 都市機能の高度化
- 災害時の対応力強化 など

第1段階：内丸地区将来ビジョンの策定 … 基本的な考え方
第2段階：(仮称) 内丸プランの策定 … 具体的な事業手法等
第3段階：事業着手